

岡崎市交通政策会議

平成20年3月25日設置
平成20年8月26日連携計画策定
平成22年1月8日連携計画一部変更



概要

鉄道や既存のバス路線と連携した利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けて、基幹となるバス路線を設定して、幹線バスネットワークの整備に向けた実証運行を行うとともに、交通空白地域における地域交通（乗合タクシー等）の実証運行、バスの待合・乗継環境の整備、さらには、公共交通情報の提供充実や公共交通利用に対する市民行動の変革を推進し、公共交通の活性化及び再生を図る。

○基幹バスの実証運行

- ◇矢作・市民病院線、額田支所・市民病院線（H20～22年度）
全市的な基幹バスネットワークの構築に向け、ネットワークの弱い市内東西軸における持続可能な**基幹バス路線設定のための実証運行**を行う。
- ◇おかざきエクスプレス 岡崎駅・市民病院線（H20～21年度）
バス交通活性化実験として、移動需要の多い交通拠点・中心市街地・都市拠点間を結ぶ**快速バスの実証運行**を行う。

○乗合タクシー等の実証運行（H20～22年度）

- ◇市中山間部の下山地区及び宮崎・形埜・豊富地区において、住民の主体的・組織的な取り組みのもと、**乗合タクシー等の実証運行**を行う。

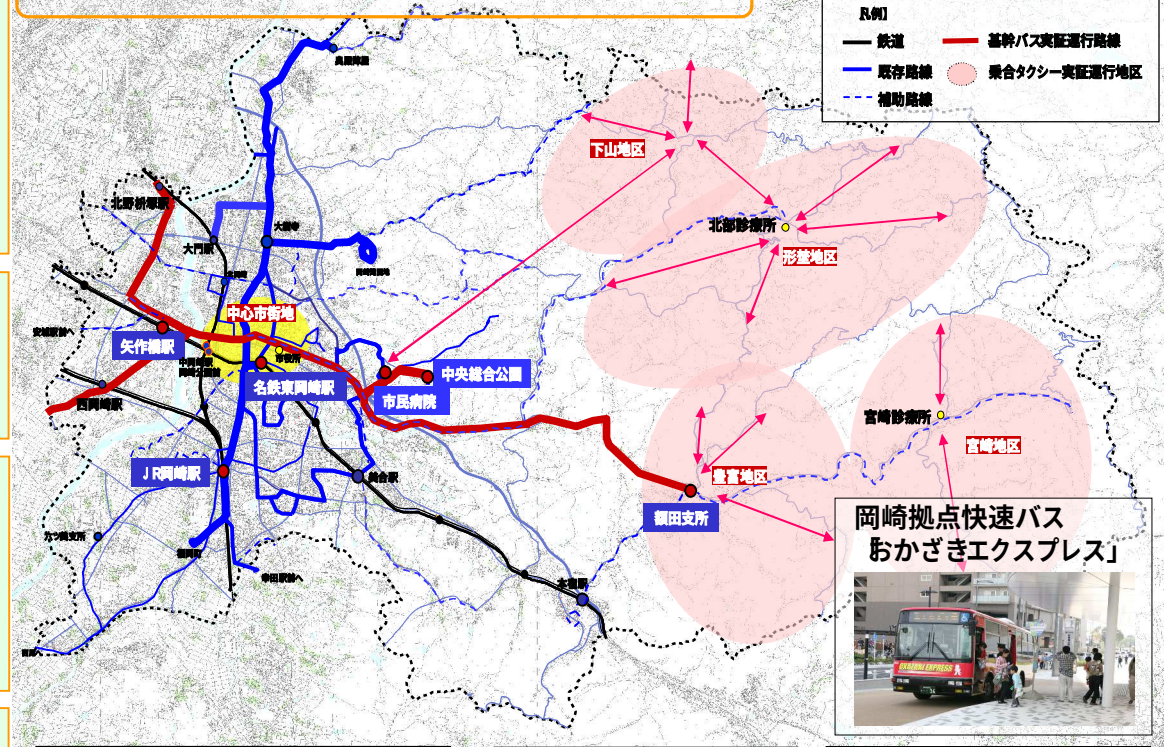
○バス利用環境の改善（H22年度）

- ◇市内バス路線において、**バスロケーションシステムを導入**するとともに、**鉄道との共通ICカードを導入**し、公共交通の利便性の向上を図る。
- ◇市内中心部の利用者の多いバス停において、**上屋やベンチを整備**し、バス待合環境の改善を図る。

○公共交通の利用促進策の実施（H20～22年度）

- ◇秋の市民まつりの2日間を「公共交通に親しむ日」として、**公共交通利用促進キャンペーンを実施**する。
- ◇公共交通による通勤が期待できるサービス水準の高い地域の事業所等を対象に**モビリティマネジメントを実施**する。
- ◇市内バス路線図や主要駅発着のバス運行情報、タクシー情報、バスロケーションシステムに関する情報を掲載した**公共交通マップを作成**し公共交通の利用促進を図る。

活性化再生総合事業の取り組み（H20～22年度）



バスロケーションシステムのサービスイメージ



バス停整備のイメージ



乗合タクシーの実証運行 下山地区）H21.3～



○協議会の開催状況及び事業の進捗状況 【4回開催】

◇岡崎市交通政策会議の開催状況と内容

第1回会議（5月）・・・総合事業の報告、下山地区ささゆりバス運行内容の見直しについて 他

第2回会議（7月）・・・総合事業に基づくバス路線の利用状況、東部地区のバス路線の見直しについて 他

第3回会議（10月）・・・実証運行路線の本格運行化に向けた対応、バスロケーションシステム等の整備について 他

第4回会議（12月）・・・総合事業の事後評価、実証運行路線の本格運行案について 他

◇総合事業の実施状況

①基幹バスの実証運行の継続（矢作・市民病院線、額田支所・市民病院線）

②額田地域乗合タクシー等の実証運行の継続

下山地区ささゆりバス（H21年3月～）、形埜地区乙川バス（H21年11月～）、

宮崎地区のってこバス2路線（H21年12月～）、豊富地区ほたるバス（H22年3月～）

③利用促進キャンペーン「公共交通に親しむ日」の実施（11月6・7日）

④「公共交通マップ」の改訂発行（12月）

⑤バスロケーションシステムの導入（12月）

⑥バス停上屋（13箇所）、ベンチ（30箇所）の整備（12月）

⑦通勤MMの実施（H23年2月実施予定）

⑧「総合事業報告会」及び「地域公共交通を守り、育てるシンポジウム」の開催（H23年2月11日開催予定）

⑨路線バス・コミュニティバスへのICカードの導入（H23年2月11日利用開始予定）

○事業の昨年からの改善点（2年度、3年度）

◇連携計画を見直し、交通事業者が実施主体となるバス利用環境の改善施策（バスロケ、上屋、ICカード）を追加。

◇基幹バス「おかざきエクスプレス」の本格運行化（H22年4月～）

◇地域交通（乗合タクシー等）の利用促進

・各地域住民組織が主体となって運行内容を改善

・小学生の通学手段としての利用の促進

・地域住民によるバスを利用したウォーキングツアーの実施

◇交通事業者と連携した利用促進の展開

バス事業者に加え、新たに鉄道事業者も参加し「公共交通に親しむ日」を開催するなど、効果的に公共交通利用の動機付けやPRを行った。

○事業の具体的な成果

◇実証運行路線の利用者推移

・基幹バス

	H21年度 日平均利用者数	H22年度(～H22.12) 日平均利用者数
矢作 市民病院線	97.9人	97.3人
額田支所 市民病院線	18.2人	20.8人

※平成23年度以降本格運行化 継続運行)

・地域交通 乗合タクシー等)

	H21年度 日平均利用者数	H22年度(～H22.12) 日平均利用者数
下山地区ささゆりバス	16.4人	20.1人
形埜地区乙川バス	3.7人	4.0人
宮崎地区のってこバス1号	7.6人	21.1人
宮崎地区のってこバス2号	3.0人	14.3人
豊富地区ほたるバス	3.0人	10.8人

※宮崎地区・豊富地区では、H22年度より小学生の通学手段としての利用を開始

※H23年度以降本格運行化 継続運行)

◇利用促進キャンペーン 「公共交通に親しむ日」

・キャンペーン期間中のバス利用者

一般路線バス利用者数が通常の日と比較して11.0%増加

コミュニティバス「まちバス」の利用者が通常の日と比較して22.5%増加

平成23年度以降も継続実施

○今後の課題等

地域が主体的に取り組んでいる実証運行路線の利用状況は良いが、その他の一般路線の利用者は減少している。

このため、今後も継続して利用促進や改善などの取り組みを行うとともに、地域住民の主体的な取り組みを他の地域へ波及させを拡大していくことが必要である。

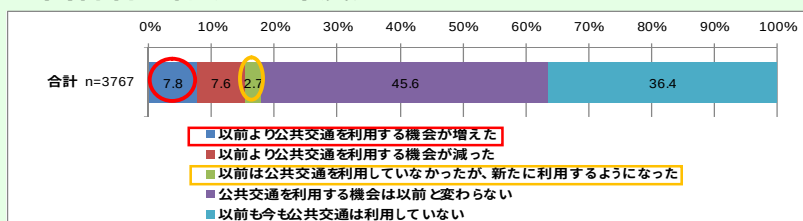
○自己評価のポイント 事業を実施する上で苦労した点、工夫した点等)

○連携計画に基づき各種交通施策を実施したことにより、**市民の公共交通利用に対する意識が向上した。**

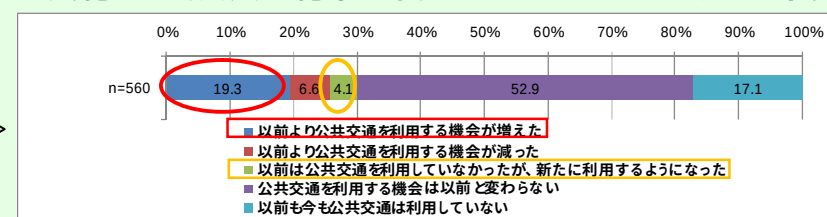
○地域が主体的に取り組み、それを行政がサポートするという役割分担を明確にしたことで、**地域住民にマイバス意識が醸成され、利用促進につながった。**

①総合事業を知っている方の公共交通利用機会が**増加**

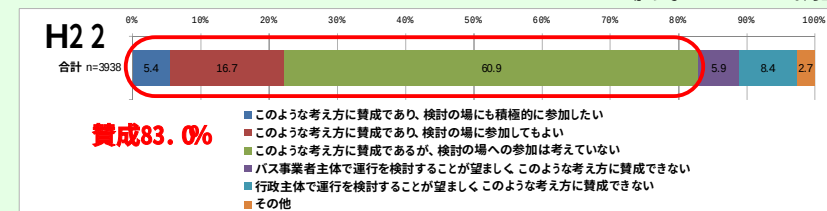
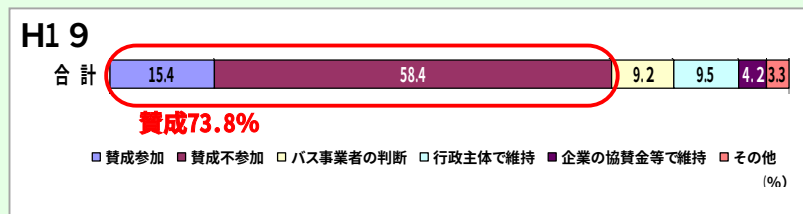
○回答者全体 (H22年度)



○実施した公共交通施策を半分以上知っている人 (H22年度)



②地域が主体となって地域公共交通を検討することについて、賛成の意見が**増加**



③地域が主体的に取り組んだ実証運行路線では利用者が**増加**

対象バス路線	年間利用者数増減 H22/H21	備考
岡崎市バス路線全体	9.5%	実証運行路線は、市や地域住民が主体的にかかわり、主要公共施設等を結ぶ拠点快速バス、市民病院を結ぶ節点とする基幹バス、中山間地における乗合タクシーの運行を行った。
実証運行路線 (基幹バス路線+乗合タクシー等)	10.5%	
補助路線	9.0%	
非補助路線	9.6%	

④バス交通環境に対する満足度が**向上**

